

淀川水系流域委員会 第31回淀川部会(2005.9.13開催) 結果報告	2005.10.7 庶務発信
---	----------------

開催日時：	2005年9月13日(火) 16:00~19:15
場 所：	京都市サーチパーク4号館 地下1階 バズホール
参加者数：	委員15名、河川管理者(指定席)16名 一般傍聴者81名

1. 決定事項：特になし

2. 報告の概要

○大戸川ダム・天ヶ瀬ダム再開発の調査検討内容について

委員より、大戸川ダム・天ヶ瀬ダム再開発の調査検討内容について質問がなされた後、審議資料1-2「大戸川ダムの調査検討(とりまとめ)」、審議資料1-3「天ヶ瀬ダム再開発の調査検討(とりまとめ)」、審議資料1-4「塔の島地区の河道整備について 宇治川下流の治水対策について」、審議資料1-5「天ヶ瀬ダム再開発について」を参考に委員と河川管理者の意見交換がなされた。主な意見交換は以下の通り(例示)。

①大戸川ダムについて

- ・大戸川の治水は滋賀県と調整していく必要がある。河川管理者はどのような調整を行っていくのか。「大戸川ダムは当面実施せず」という方針は、「天ヶ瀬ダムの放流量増大実施」とセットなのか。
 ←大戸川の治水については滋賀県と調整していく。大戸川ダムを当面実施しない場合の河川整備レベルは、将来的にはダムを実施することも考えられるので、二重投資にならないような規模の整備を考えなければならない。また、大戸川で1350m³/sに耐えられる整備をすれば、下流の流量増加にも繋がるので、そういった点も合わせて、滋賀県と調整していきたい。大戸川ダムを当面実施しないという方針は、審議資料1-2 P4のとおり、天ヶ瀬ダム再開発後を前提にしている(河川管理者)。
- ・下流への流量増を伴わない河川改修とは具体的にどのような整備なのか。大戸川は滋賀県が主体になって整備を進めていくことになるが、河川整備が遅れば、水害が発生する危険性が高い(部会長)。
 ←大戸川の整備をした上で、将来的に大戸川ダムができれば、二重投資になってしまい、目標としていた以上の整備をしてしまうことになる。また、大規模な改修をすれば、下流の流量増化につながってしまう。当面、大戸川でどの程度まで改修を進めるか、調整していく必要がある(河川管理者)。
- ・高時川は治水上の緊急性から丹生ダムを実施するとしているが、大戸川も高時川と同じではないか。
 ←丹生ダムは、高時川・姉川の洪水対策と異常渇水対策容量の確保を目的としている。国として実施する大戸川ダムは、瀬田川・宇治川、三川合流を対象に判断を行った。今後の大戸川の治水については課題として残っているので、滋賀県と調整していく(河川管理者)。
- ・審議資料1-2 P6で「大戸川下流の治水については、コスト面から、ダムよりも河道改修等が有利」という判断がなされている。この判断は、ダム以外の対策で治水安全度が確保できるという前提でなされたという理解でよいか。具体的にどのような河道改修を想定したうえで判断したのか、教えて頂きたい。
 ←大戸川ダム実施後と同じ治水安全度で検討した。河道掘削と河道拡幅等のコスト比較の結果、ダムよりも河道改修の方が有利という結果が出ている。河道延長が約10km程度のため、大戸川ダムよりも河道改修の方がコストは低い(河川管理者)。
 ←河川管理者の中間とりまとめへの意見書の中で、堤防補強・河道改修・2線堤等の治水対策で既往最大洪水に対応できるのではないかと意見を述べた。今回の調査検討結果ではコスト比較しか書かれていないので、大戸川の治水安全度確保の方法が気になっている。大戸川ダムに代わる治水対策を示して頂きたい(委員)。
- ・「当面実施せず」という方針は地域住民の皆様に説明したのか(部会長)。
 ←地元の対策協議会等への説明は随時行っている。大変厳しいご意見を頂いている。移転者の方の苦渋の決断、関連事業・地元活性化、今後の大戸川の治水についてご意見を頂いている(河川管理者)。

②天ヶ瀬ダム再開発について

- ・天ヶ瀬ダム放流能力を1500m³/sに増大することだが、1500m³/sという数字が妥当かどうか。再度、説明して頂きたい。また、洗堰の放流能力をどう確保するか。洗堰の下流水位を下げるためには、鹿跳溪谷の整備が必要だが、鹿跳溪谷はバイパストンネル案で本当によいのか。塔の島地区の景観はどうなるの

か。1500m³/s 流して宇治川下流は本当に安全なのか。

←琵琶湖の水位をできるだけ早く下げするためには 1500m³/s は過大ではない。塔の島地区については、掘削量と事業費を比較検討した結果、1500m³/s 程度までは必要最低限の掘削で流下能力を増強させることができるが、1500m³/s 以上にするためには広範囲の掘削が必要になり、事業費がかなり増える。こういった点から上流と下流で合意した 1500m³/s は妥当だと考えている（第2回ダムWG 資料 4-2 P48. 49）（河川管理者）。

・瀬田川から 1200m³/s、大戸川から 300m³/s、合計で 1500m³/s という計画だったが、大戸川ダムを建設しなければ、大戸川の流量制御はできないのではないのか。

←鹿跳溪谷を整備した後では、大戸川ダムがあってもなくても、下流域の水位は変わらない。天ヶ瀬ダム以下で 1500m³/s になるように瀬田川洗堰で流量を調節することになる（河川管理者）。

・後期放流はどれくらい続くのか。また、塔の島地区で 1500m³/s 流れる期間はどの程度なのか。

←昭和 28 年 9 月洪水や昭和 36 年 6 月洪水で検討した結果では、水位が高くなった場合は全開放流は 10 日以上続く（審議資料 1-3 P6）。琵琶湖水位低下にともなって塔の島地区を流れる流量も減ずるため、1500m³/s 流れている期間はそれほど長くない。ただ、BSL±0 cm 程度であつても下流では普段は流れていない 800m³/s 程度が長期にわたって続く。このため、600m³～700m³/s が 2～4 週間流れた場合も含めて下流の堤防を調査し、補強が必要な区間を示した（河川管理者）。

・1500m³/s 放流は何十年に 1 回程度で瞬間的な流量で、平常時には 800～1000m³/s が最大流量とのことだが、こういった見地からの環境への影響や河床変動への影響は検討しているのか。

←環境への影響については、現在、検討を進めているので、まとめ次第報告する（河川管理者）。

←流速の増加が河床変動に与える影響は、現時点では検討できていない。流域全体を見た土砂の移動の適正化も含めて考えていく必要があると思っている（河川管理者）。

・これからダムを造る場所ではしっかりと環境の調査検討をしているが、天ヶ瀬ダム再開発では弱い気がする。流速や水位に対する調査をして頂きたい。

・新たな放流口設置による低周波音の拡大に関する検討状況が、審議資料 1-3 P15 で示されているが、実際に低周波音は拡大するのか。

←現況における低周波音の調査を実施した。堤体に新たな放流口を開けた場合に関しては、模型を作成して実験する予定だ。低周波音には環境基準がなく、どの程度増えたらどう影響するのかといったところまで検討しないといけないと考えている。基本的には空気振動が遠方に伝わるため、発生源対策や影響が発生している箇所での振動対策を考えている（河川管理者）。

・ナカセコカワニナが 1500m³/s 放流で存続できるかどうか、マーキング調査等の検討が必要だ。

←検討事項だと考えており、紀平委員（前委員）にお話を伺っている。800m³/s 放流によってナカセコカワニナがいなくなったという話は聞いていない（河川管理者）。

・塔の島地区の景観は相当変化した景観だ。以前の景観に戻すための検討や取り組みはできているのか。

←地域の方々が入ってもらって検討委員会で具体的な案を検討しようと思っている（河川管理者）。

3. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者 3 名からの発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

・1500m³/s 放流に関する調査検討が不十分。大戸川ダムを実施しない場合には、昭和 46 年の計画との関係はどうなるのか。塔の島の代替案である引き提案や嵩上げ案について数年前の検討会で検討した結果、河道掘削を検討するという事になったのではないのか。今後検討するのであれば、いつ検討するのか。委員会は、判断する上で必要なデータをもっと要求するべきだ。ナカセコカワニナと流速や低周波の検討結果等についてデータを要求して頂きたい。ゲート増設後の低周波増大にはおそらく対応できないと思う。塔の島地区の検討委員会は、住民合意を得ていく上でも、委員を公募すべきだ。

・亀岡の治水対策と大戸川ダムや天ヶ瀬ダム再開発との関連がよくわからない。河川管理者は桂川も含めて大戸川ダムと天ヶ瀬ダム再開発を検討して頂きたい。

※このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。